

林木育種事情調査（ミャンマー連邦共和国）

1. はじめに

2018年2月にミャンマー連邦共和国(以下「ミャンマー」)に出張し、林木育種及び林木遺伝資源保全事情調査を実施しました。本稿では、チークの育種の現状について紹介します。なお、チークを含む木材はミャンマーの主要な輸出品目の一つです。

2. ミャンマーの森林・林業

1990年代の10年間でチーク天然林の蓄積量は2億4千万m³から1億5千万m³へと大きく減少しています。ミャンマー森林局では1980年代から大規模な植林を開始していますが2007年時点での人工林面積は全森林面積の7%程度です。この内チークの植林面積は約38万haで全植林面積の42%を占めています。ミャンマー森林局は2017年からチークの植林面積を全植林面積の80%とする森林経営計画を策定しています。この計画では、チークの造林目標は年間当たり約2万haで、捕植を除く植栽本数は年間2,600万本です。

3. ミャンマーにおけるチークの林木育種の現状

ミャンマーのチーク育種の端緒は1930年代に東南アジア各国が参加した産地試験だと思われまます。1980年代にはチーク育種の機運が盛り上がり、優良木の選抜やクローン採種園の造成などが行われました。ミャンマー森林局では、1996年から地域ごとの年次計画に基づく採種林の造成を進め2006年までに約3,200haの整備が完了しています。



写真 1965年に設定された採種林

調査で訪れた、1965年に設定された採種林では、設置当初は20haであったものが道路拡張等の影響で現在は面積が減っているとのことでした。虫害などの被害は出ていないものの、直近の3年間は着果していないとのことでした。

国内で2か所に減少してしまったクローン採種園の1つである、Let-Pan Khoneリサーチセンターの採種園は1982年に地域周辺で選抜されたプラスツリー33クローンを用いて2.6haの区画に植栽密度120本/haで造成されました。この採種園の果実生産量は、平均的な年で約15万～23万粒/haとのことでした。



写真 Let-Pan Khoneリサーチセンターのクローン採種園

今回の調査では、ミャンマー全体の種子生産量のデータを入手できなかったのですが、森林局職員によれば、現在ミャンマーではチークの種子が足りない状況であるとのことでした。いずれにしても、造林種苗の一部に採種林産の初期的な遺伝的改良段階の苗木を使用している現状だと推察されました。

ミャンマー森林局ではチークを含む重要造林樹種5種については、それぞれ750個体のプラスツリーを選抜しており、チークについては接ぎ木増殖を実施していることから、プラスツリーを用いたクローン採種園の設定が増加するかもしれません。今後は遺伝的改良度と改良種苗の普及率によって決まる植林事業の増収への寄与度や育種に投資できる予算等を総合的に評価し、チークの育種戦略を策定することが重要であると考えられます。

(海外協力部 西表熱帯林育種技術園 千吉良 治)